

# ムササビ

160メートルを飛ぶムササビ

都留いきものふれあいの里

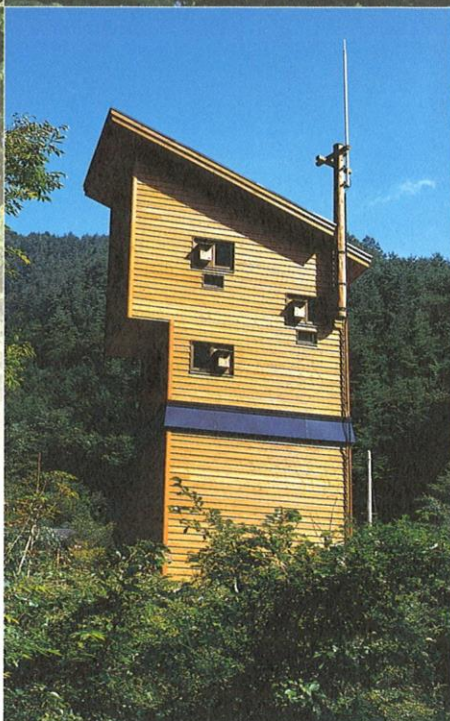
●敷地面積/14.5ha●観察できるいきもの/  
春・モンシロチョウ、ウスバシロチョウ、シジュウカラ、オオルリ、ヒキガエル 夏・クジャクチョウ、ヒョウモンチョウ、セミ 秋・野ネズミ、リス、アキアカネ 冬・ヤマガラ、エナガ、ジョウビタキ、ムササビ●所在地/都留市大幡5108

## いきものふれあいの里



ムササビ  
●体長/80cm●体重/1kg前後●滑空距離/100m以上(飛び立つ高さの2倍位)●食べ物/果実・木の芽・若葉●観察会/ムササビと森を守る会(都留文科大学動物学研究室内)

Glides of 160 meters have brought international fame to the musasabi flying squirrels of Osasa Shrine. Musasabi have been confirmed to reside in all districts of the city.



ムササビは世界でも最大級の夜行性のリスで、手足を広げると脇腹から大きな飛膜が張り出し、それを使って100メートル以上滑空します。十日市場の小篠神社のケヤキの洞に住む2、3頭のムササビは、食物を捕りに出かけた先の国道139号を隔てた山から明け方神社に帰ってくる時に、なんと160メートルもの滑空を行うのです。これは、日本最高の滑空距離といわれています。

からだの大きなムササビは、神社のご神木のような大木の洞にスギの皮などを運び込んで巣を作ります。神社のような人里近くにある危険の多い場所に住んでいても、ムササビの場合、滑空のおかげで地上の危険を避けながら、木から木へと食物を求めて移動して暮らしているのです。小篠神社の他にも生出神社、今宮神社、石船神社の森など市全域でムササビの生息が確認されています。

大幡地区にある「いきものふれあいの里」は、動植物の観察や学習を通して自然に対する理解を深めるために開設された施設です。ネイチャーセンターを核に、森、林、川といったサテライトが遊歩道で結ばれ、遊歩道をたどる生き物たちに出会えるようになっていきます。とくに目を引くのが大木をイメージしたムササビタワー。大木に巣を作るムササビの生態に合わせて、建物の壁にはいくつもの木の洞が取り付けられています。

また、日曜日や祝日、夏休みを利用して開かれる自然や野鳥の観察会、自然教室には毎回多くの市民が参加しています。